

	まなび	かかわり	くらし	特別支援
重点目標	対話を通して、 考えを広げ深める子	友達を思いやり、 互いに助け合う子	責任を果たし、めあてに 向かってやり遂げる子	一貫した支援を行うための 校内体制の確立
達成目標	ア ペアや小グループ、全体でかかると、勉強が分かると答える児童が80%以上。 イ 授業で自分の考えを進んで伝えている児童が70%以上。	ア 学級や異学年間での活動で、相手の気持ちを考え助け合っている児童が85%以上。 イ 友達とかかわって活動することにとっても満足している児童が80%以上。 (Aだけの割合)	ア 自分の仕事(清掃・委員会・係・当番)で、自分の役割をやり遂げている児童が80%以上。 (Aだけの割合) イ 挨拶強調週間で、友達や先生、地域の方に自分から気持ちのよい挨拶をしている児童が85%以上。	ア 対象児童について、「個別の指導計画を作成し、それに基づいた支援を行い、目標を達成することができた」とする教職員が100%以上。 イ 教室前面・黒板の掲示物の精選と時間表の掲示、教室環境の整備、指導法についての取組をしている教職員が100%。
方策 (手だて)	ア 「下山授業スタイル」(新たにICTの活用を含めた)を取り入れた授業を1日1回以上行う。	ア ピア・サポート活動を年3回以上実施し、自分にできるサポートに取り組ませる。 イ 昼休みに、なかよし班での遊びや学級での遊びを年8回実施する。	ア 前向きでよい行動を示すとともに、「Good Job」とよさ・頑張りを認める。 イ①気持ちのよい挨拶ができるように、自己目標を設定して取り組む。 ②全校体制による挨拶運動を2回以上実施する。	ア 個別の指導計画の作成を進め、保護者との共有化を図り、支援について加除訂正しながら活用できるものにしていく。 イ UDLの視点で教室環境の整備や指導法について、全校体制で取り組むことを明確にし、実施する。

